



東海構造研究グループ

平成 2 1 年度活動報告集

平成 2 2 年 4 月

ご 挨拶

東海構造研究グループ(略称 SGST)は、中部地区で構造工学の分野に関わる約 10 の大学、高専等の教育機関と約 13 の法人会員(官公署、企業)および約 80 名の個人会員から構成される団体です。昭和 53 年に当時名古屋大学教授の福本嘯士先生他により創設され、以後の組織改正を経て、平成元年 4 月に作成された新規約のもとで今日に至っています。

研究活動の主な目的は、研究会などの種々の活動を通じて、立場を異にする会員間の相互理解と親睦を深めることにあります。隔月に開催する定期研究会は、会員の多くが興味を抱くと考えられる最新テーマについて、主に外部から講師を招いて実施しています。重要度の高いテーマについては 2 年間の研究委員会を設置し、重点的に調査研究を行っています。また、橋梁に関する新技術、損傷事例、補修工事の現場見学会も随時開催しています。さらに、定期研究会などは土木学会の継続教育制度(CPD)プログラムとして申請・認定され、会員の土木技術者としての資質向上の証明に役立てられています。なお、CPD プログラムへの申請は平成 20 年度に一旦中止しましたが、本年度より再開しています。

本年度は、定期研究会として、**第 1 回**「長スパン対応の複合橋梁の開発と限界状態設計法」〔長岡技術科学大学 教授 長井正嗣氏〕、**第 2 回**「やりくりのアセットマネジメント(予防保全はこうして実現する)」〔(株)BMC 阿部 允 氏、JR東海・静岡構造物検査センター 石川達也氏〕、**第 3 回**「発注者側の悩み・施工設計会社への要望」〔愛知県知多建設事務所 小野口勝久氏、中垣智氏、野村拓哉氏〕、**第 4 回**「長大橋に関する話題」〔本四高速 長大橋技術センター 福永 勸氏〕、**第 5 回**「社会資本をめぐる議論」〔日本橋梁建設協会 副会長 中島威夫氏〕、**第 6 回**「鋼道路橋における腐食損傷と防食技術の課題」〔九州大学大学院 准教授 貝沼重信氏〕を開催しました。また、本年度は事前に会員へのアンケートを実施し、可能な限り要望を反映したテーマを設定しました。

昨年 9 月の政権交代により、「コンクリートから人へ」という国の方針が明確に打ち出され、国土交通省関連の予算などが削減されました。このため、国内の橋梁の新設は大幅に減り、業界を取り巻く環境はますます厳しくなっています。一方、国外に目を転じますと、リーマンショックをきっかけとした失速から立ち直りつつあり、アジア地域のみならず世界的にも社会基盤整備にかかわる公共工事の予算は増加傾向にあります。それを背景として、国際展開をしているヨーロッパなどの建設産業は再び活気を取り戻しつつあるようです。したがって、我が国の建設業界にとっても国際市場への事業展開の必要性は一層高まっていると考えられます。いうまでもなく、橋梁業界も長年培ってきた世界トップレベルにある技術力をもとに海外への事業展開を早急に模索することが求められています。今後、縮小する国内市場を考えると、高度な橋梁技術の継承と発展のためにも海外のフィールドは不可欠といえます。

最後に、本年度のSGSTの活動にご尽力いただいた幹事の皆様、また、会場をご提供いただいた愛知工業大学の青木徹彦先生、鈴木森晶先生に心よりお礼を申し上げます。

平成22年度SGST代表
名古屋工業大学 後藤芳顯

東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2010年3月

東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ（略称 S G S T）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体（官公署、企業）および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 昉士
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成3年 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男
- 平成17年 4月 代表 青木 徹彦
- 平成19年 4月 代表 久保 全弘
- 平成21年 4月 代表 後藤 芳顯

平成22年度 東海構造研究グループ代表および事務局

代表 後藤 芳顯 〒466-0061 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学 大学院 工学研究科 社会工学専攻
TEL 052-735-5486
FAX 052-735-5503
E-Mail goto@kozo4.ace.nitech.ac.jp

事務局 織田 博孝 〒475-0826 愛知県半田市神明町1-1
(幹事長) 瀧上工業(株) 生産本部 設計グループ
TEL 0569-21-4208
FAX 0569-21-6137
E-Mail h.oda@takigami-grp.jp

松村 寿男 〒454-8517 名古屋市中川区清川町2丁目1番地
(事務担当) 瀧上工業(株) 技術企画グループ 技術開発チーム
TEL 052-351-2269
FAX 052-351-5864
E-Mail t.matsumura@takigami-grp.jp

会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があげられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

| | | |
|-------|----|----------|
| 正会員 | 年額 | 2,000 円 |
| 賛助会員 | 年額 | 1,000 円 |
| 特別会員 | | |
| 第 1 種 | 年額 | 30,000 円 |
| 第 2 種 | 免除 | |
| 名誉会員 | 免除 | |

特別会員の第 1 種と第 2 種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第 2 種は設けられていますが、現在はできるだけ第 1 種へ入会していただくようお願いしています。

東海構造研究グループの活動

研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。

現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。

構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980)および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994)を「橋梁と基礎」にそれぞれ 2 回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告資料集」を毎年発刊しています。

講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催、共催または協賛を行っています。

協賛例：平成 2 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成 4 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

- 景観設計とライフライン構造物の設計および管理 - 」

平成 6 年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成 7 年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計

- 橋梁構造物 - 」

共催例：平成 17 年度 橋梁技術発表会 「 - 橋梁技術の最前線 - 」

主催：(社)日本橋梁建設協会

平成 18 年度 構造工学フロンティア

主催：「構造工学フロンティア」実行委員会 (名古屋大学)

組織と運営

会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

| 会員区分 | 資 格 |
|-------|--|
| 正 会 員 | 本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者 |
| 賛助会員 | 正会員の研究活動に参加しまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者 |
| 特別会員 | 本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。 |
| 名誉会員 | 本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者 |

総会および定期研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。定期研究会は、隔月で開催されています。

役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。現在の役員は次の通りです。

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| 代表 | 後藤 芳顯 | 名古屋工業大学 大学院 工学研究科 社会工学専攻 |
| 幹事長 | 織田 博孝 | 瀧上工業(株) 生産本部 設計グループ |
| 事務担当 | 松村 寿男 | 瀧上工業(株) 技術企画グループ 技術開発チーム |
| | 中川 賢治 | 瀧上工業(株) 生産本部 設計グループ |
| 会計担当 | 加藤 幸男 | 中日本建設コンサルタント(株) 建設技術本部第3部 |
| | 佐藤 徹也 | 中日本建設コンサルタント(株) 建設技術本部第3部 |
| 会計監査 | 葛 漢彬 | 名城大学 理工学部 建設システム工学科 |
| 企画担当 | 吉嶺 建史 | 日本車輛製造(株) 輸機・インフラ本部 技術部 |
| 研究会担当 | 小塩 達也 | 名城大学 理工学部 環境創造学科 |
| | 川西 直樹 | 豊田工業高等専門学校 環境都市工学科 |
| | 北根 安雄 | 名古屋大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 |
| | 鈴木 森晶 | 愛知工業大学 工学部 都市環境学科 |
| | 永田 和寿 | 名古屋工業大学 大学院 工学研究科 社会工学専攻 |
| | 酒造 敏廣 | 大同大学 工学部 都市環境デザイン学科 |
| HP担当 | 原田 敏行 | (株)創建 道路交通計画部 |

東海構造研究グループ会則

制定 平成元年 4月1日

(名称)

第 1 条 この会は東海構造研究グループという。英文名を Study Group of Structures in Tokai とし、略称を SGST という。

(目的)

第 2 条 本会は、構造物に関する意見の交換及び調査研究を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) 構造物に関する研究会の定期的な開催
- (2) 講演会・講習会・座談会及び懇親会の開催及び協賛
- (3) 見学会及び視察
- (4) 構造物に関する試験及び指導の受託
- (5) その他、本会の目的達成に必要な事業

(会員の種別及び資格)

第 4 条 本会の会員の種別及び資格は次の通りとする。

- (1) 正会員
本会の各種事業の主体となって活動する次の各号の 1 に該当する者
 - (ア) 構造物に関する業務に従事している者
 - (イ) 構造物に関する学識経験者
 - (ウ) 前号に準ずる者
- (2) 賛助会員
正会員の研究活動に参加し又は支援する正会員の経験者及びこれに準ずる者。
- (3) 特別会員
本会の目的及び事業に賛同し、本会を援助する会社及び団体。
特別会員は第 1 種と第 2 種に分け、第 2 種の会員は会費納入の義務を負わない。
- (4) 名誉会員
本会及び構造物に関する功績が特に顕著であって、総会において推挙された者。

(会員の入退会)

第 5 条 会員(名誉会員を除く)の入会並びに退会は、会員規定の定めにより手続きを行い、代表の承認を得なければならない。

(会費)

第 6 条 会員は、会費及び臨時経費を負担する。会費及び臨時経費の額は、会員規定で定める。

(役員)

第 7 条 本会には、次の役員を置く。

- (1) 代表 1 名
- (2) 幹事長 1 名
- (3) 幹事 若干名
- (4) 会計監事 1 名

(役員任期及び報酬)

第 8 条 役員任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

第 9 条 本会の役員は、名誉職とする。

(役員の選出)

第 10 条 役員は、総会において会員の互選によって選出されるものとする。

(役員の職務)

第 11 条 役員は、以下の職務を行う。

- (1) 代表は、本会の会務を総理する。
- (2) 幹事長は、代表を補佐し、代表に事故あるときは、これを代理する。
- (3) 幹事長及び幹事は、会計を含む会務を処理する。
- (4) 会計監事は、会計を監査し、総会で監査内容を報告する。

(会計年度)

第 12 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終わる。

(定期研究会及び総会)

第 13 条 全会員のための定期研究会は原則として、隔月に開催するものとする。総会は、年度の初めての定期研究会をもってあてる。ただし、代表が必要なときは、臨時総会を開催することができる。

(総会の審議事項及び決議)

第 14 条 総会は、本会の予算、決算、その他重要事項を審議し、出席会員の過半数で決定する。可否決議のときは、議長が決定する。

(委員会の設置)

第 15 条 第 3 条の事項を行うため、委員会をおくことができる。委員会の設置及び廃止は総会で決定する。年度をこえて委員会を継続するときは、総会で承認を得なければならない。委員会の活動は別に定める委員会規定による。

第 16 条 委員会の委員長は、代表の推薦によって総会で決定する。

第 17 条 委員会の研究及び事業の成果は、総会又は定期研究会に報告する。

(会則の変更)

第 18 条 本会則の変更は、総会の決議による。

付則 本会則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

幹事内規

平成 元年 4 月制定

平成 21 年 4 月改正

1 . 幹事の構成

幹事の構成は下記を基本とする。

- ・ 代表（1 名）：総会での議事進行を行う。
- ・ 幹事長（1 名）：SGST の総括・運営、幹事会での議事進行を行う。
- ・ 事務担当（1～2 名）：幹事長を補佐し、SGST の事務全般を行う。
- ・ 会計担当（1 名）：SGST の会計管理を行う。
- ・ 企画担当（1 名）：SGST の懇親会・見学会の設定を行う。
- ・ HP 担当（1 名）：SGST の HP について更新・改訂を行う。
- ・ 研究会担当（6 名）：定期研究会の講演者選出を行う。ただし、研究会担当のうち 1 名は会計監査担当を兼務する。

2 . 幹事の役割分担

代表 1) 毎年 4 月に行われる総会における議事進行

2) 毎年 4 月に作成する活動報告集（前年度分）の挨拶文を作成

幹事長 1) SGST の総括と運営

2) 隔月で開催される幹事会における議事進行

事務担当 1) SGST 会員名簿の管理

・ 入会、脱会届、変更届を活動報告集とともに送付

・ 会員の変更を名簿に反映

2) 隔月で開催される幹事会および定期研究会の準備

・ 会場の予約

・ 幹事会および定期研究会の案内作成

・ 幹事会の議事作成

・ 幹事会および定期研究会の参加者への配布する飲み物を準備

・ 幹事会および定期研究会の議事録作成

3) 定期研究会の CPD 申請

・ 講演概要を土木学会に送付し CPD の申請を受ける

4) 活動報告書のまとめ

・ 活動報告書の作成、印刷

・ 活動報告書の発送

5) 日常業務

・ SGST 宛てのメール処理

6) 旧幹事と新幹事の担当作業の引継

・ 総会時の役割分担処理

7) 連絡事項

・ 入退会情報の管理

会計担当 1) 年会費の請求

2) SGST 会費の管理

3) 会議費、懇親会費等の会計

4) 講演費および旅費の領収書を作成、発行

5) 年度収支の会計報告書を作成

6) HP 請求書の処理

企画担当

- 1) 懇親会の準備
 - ・懇親会会場の設定
 - ・会場までの送迎手配
 - ・懇親会参加者の事前確認
 - ・懇親会当日参加者の確認
 - ・懇親会会費の収集
 - ・領収書の作成、発行
- 2) 見学会の準備
 - ・見学会の企画
 - ・見学会の案内

HP 担当

- 1) HP の更新・改定
 - ・幹事の更新
 - ・定期研究会の開催案内の更新
 - ・SGST 活動報告集の掲載
 - ・研究委員会の紹介を更新
 - ・研究委員会報告書のパスワードを毎年更新
 - ・研究委員会の活動報告書を掲載

研究会担当

- 1) 定期研究会の準備
 - ・講師の決定
 - ・講師への講演依頼
 - ・講演題目、講演概要を講師に作成依頼
 - ・交通費および宿泊費の有無を講師に確認
- 2) 定期研究会の司会進行

SGST講演費・旅費・宿泊費の改訂

2006年4月
2009年10月

表 - 1 SGST講演費の規定

SGST主催：年6回
定期研究会の場合

| 支給区分 | 現行 | 改定 |
|---------|--------|--------|
| SGST会員 | 20,000 | 10,000 |
| SGST非会員 | 40,000 | 20,000 |

SGST：共催講演会の場合
(SGSTシンポジウム・周年記念等を除く)

| 支給区分 | 現行 | 改定 |
|---------|--------|--------|
| SGST会員 | 10,000 | 10,000 |
| SGST非会員 | 20,000 | 20,000 |

表 - 2 SGST旅費の規定

旅費の申請がある場合は次の旅費を支給する。

| 支給区分 | 現行 | 改定 |
|------|--------|------|
| 東京 | 25,000 | 現行通り |
| 大阪 | 15,000 | 〃 |
| 福山 | 30,000 | 〃 |
| 金沢 | 20,000 | 〃 |
| 長野 | 15,000 | 〃 |

表 - 3 SGST宿泊費の規定

| 支給区分 | 現行 | 改定 |
|-------|--------|------|
| 名古屋市内 | 10,000 | 現行通り |

表 - 4 SGST定期研究会後の懇親費用負担の規定

| 支給区分 | 現行 | 改定 |
|----------------|------|-------|
| 「お礼会」(懇親会以外) | 規定無し | 2万円程度 |
| 「懇親会」(4,8,12月) | 規定無し | 3万円程度 |

*講演者+依頼者(合計4名を想定)で20,000円の試算。講演者は無料。依頼者の負担を補助により軽減。担当幹事にて良識の範囲内で判断。

**「会費徴収」の旨を連絡し、当日会場で4000円程度/人(会場に依存)の徴収を行う。店の予約時に1名あたりの金額を聞き調整する。

講演者は無料、依頼者の負担軽減および会員の費用補助として、SGSTとして3万円程度を目安に補助。代表・幹事において良識の範囲内で判断。

研究委員会内規

平成10年4月制定

平成17年4月改正

1. 研究委員会の目的

研究委員会は、構造工学に関する調査研究を行うとともに、學術の進歩に寄与することを目的とする。

2. 研究委員会の活動

研究委員会は、目的達成のため下記の活動を行う。

- 1) 研究委員会の目的に相応しい、調査・研究
- 2) 東海構造研究グループ(以下、S G S Tと呼ぶ)内の他研究委員会との相互連絡
- 3) S G S Tによる行事に関する企画・協力
- 4) 関連する他学協会の研究委員会および諸官公署等との連絡・調整
- 5) S G S T定期研究会における成果報告
- 6) その他

3. 研究委員会の構成

研究委員会は、委員長1名、幹事1名、および委員若干名で構成する。委員はS G S T会員の中で公募する。

4. 研究委員会の活動期間

研究委員会の活動期間は原則として、2年間とする。

5. 研究費

研究委員会の研究費は原則として、最大100万円/2年とする。研究費の用途としては、会議費、調査費、研究旅費および謝金、等とする。会議費は、1回当たり2,000円/人を限度として使用できる。研究費の残金は、S G S Tに返金するものとする。研究会の会計報告書は、幹事会を経て次年度の総会に提出し、承認を得る。

6. 運営

研究委員会の開催は、定期的に行う。ただし、委員長および委員の要望により適宜開催することができる。

7. 研究奨励

S G S T活動の活性化を諮るために研究奨励の公募を行うものとする。

1) 対象

- ・ 若手研究者への研究奨励
- ・ 調査研究

2) 研究奨励金給付条件

定期研究会等におけるS G S Tでの成果報告
研究成果報告書の作成
学会発表、論文投稿を推奨(S G S Tの助成を明記する)
会計報告

3) 研究奨励費

研究奨励費は原則として、最大40万円とする。研究奨励費の用途としては、会議費、調査費、研究旅費および成果品報告書の作成費とする。

8. 内規の変更

内規は、S G S T幹事会で発議し総会で諮った後、代表の承認のもとに改正することができる。

平成21年度 東海構造研究グループ 会員名簿

H22. 3.31現在

< 特別会員 >

(会員数: 12社)

| 所属 | 代表者名 | 備考 |
|--------------------------|--------|------|
| (株)HIインフラシステム | 志治 健一 | |
| JIPテクノサイエンス(株) | 片山 淑広 | |
| 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社 | 野田 幹夫 | |
| 日本車輛製造(株) | 山田 忠信 | |
| 瀧上工業(株) | 尾関 一成 | |
| 中日本建設コンサルタント(株) | 加藤 幸男 | 会計担当 |
| 日本橋梁(株) | 小西 日出幸 | |
| 東京鉄骨橋梁(株) | 入部 孝夫 | |
| 名古屋高速道路公社 | 山田 健資 | |
| (株)創建 | 筒井 信之 | |
| トピー鉄構(株) | 播金 昭浩 | |
| (株)篠田製作所 | 水野 勇 | |

< 正会員 >

(会員数: 80名)

| 氏名 | 所属 | 備考 |
|--------|------------------|------------|
| 青木 徹彦 | 愛知工業大学 | 常任理事 |
| 青嵐 安弘 | 中部復建(株) | |
| 穂山 正幸 | (株)コベルコ科研 | |
| 安藤 弘章 | 日本工営(株) | |
| 安藤 浩吉 | | 常任理事 |
| 石川 敏之 | 名古屋大学 | |
| 泉野 誠司 | 玉野総合コンサルタント(株) | |
| 伊藤 義人 | 名古屋大学 | 常任理事 |
| 乾 敬彦 | 大日コンサルタント(株) | |
| 岩本 政巳 | 名古屋工業大学 | |
| 宇佐美 勉 | 名城大学 | 常任理事 |
| 海老澤 健正 | 名古屋工業大学 | |
| 大内 隆志 | (株)オリエンタルコンサルタンツ | |
| 奥村 徹 | 名古屋工業大学 | |
| 小塩 達也 | 名城大学 | 研究会担当 |
| 小畑 誠 | 名古屋工業大学 | 常任理事 |
| 葛西 昭 | 名古屋大学 | |
| 梶川 康男 | 金沢大学 | 常任理事 |
| 嘉津 敏明 | 川田テクノシステム(株) | |
| 加藤 雅彦 | (株)長大 | |
| 加藤 正実 | (財)海洋架橋・橋梁調査会 | |
| 鎌田 裕一 | (株)東京建設コンサルタント | |
| 川西 直樹 | 豊田工業高等専門学校 | 研究会担当 |
| 北根 安雄 | 名古屋大学 | 研究会担当 |
| 木下 幸治 | 岐阜大学 | |
| 葛 漢彬 | 名城大学 | 会計監査、研究会担当 |
| 久保 全弘 | 名城大学 | 常任理事 |
| 熊沢 周明 | 社会基盤技術評価支援機構・中部 | |
| 小枝 芳樹 | 川田工業(株) | |
| 小澤 優二 | (株)建設技術研究所 | |
| 後藤 芳顯 | 名古屋工業大学 | 代表 |
| 近藤 明雅 | 名城大学 | 常任理事 |
| 坂井田 実 | 大日コンサルタント(株) | |

平成21年度 東海構造研究グループ 会員名簿

H22. 3.31現在

< 正会員 >

| 氏名 | 所属 | 備考 |
|--------|------------------|-------|
| 佐光 浩継 | (株)維持管理工房 | |
| 佐藤 文彦 | (株)片平エンジニアリング | |
| 澤木 洋一 | セントラルコンサルタント株式会社 | |
| 椎葉 英敏 | 三井共同建設コンサルタント(株) | |
| 塩見 弘幸 | 中部大学 | 常任理事 |
| 柴田 正晴 | 大日コンサルタント(株) | |
| 清水 茂 | 信州大学 | |
| 杉本 裕哉 | 富士エンジニアリング(株) | |
| 杉山 宜央 | 杉山設計事務所 | |
| 鷲見 英吾 | 八千代エンジニアリング(株) | |
| 鈴木 五月 | 愛知県庁 | |
| 鈴木 森晶 | 愛知工業大学 | 研究会担当 |
| 大徳 康司 | 中部復建(株) | |
| 高木 達弘 | パシフィックコンサルタンツ | |
| 館石 和雄 | 名古屋大学 | |
| 田中 信治 | 中部復建(株) | |
| 田島 謙一 | 大日本コンサルタント(株) | |
| 忠 和男 | 豊田工業高等専門学校 | |
| 土橋 勝 | 横河ブリッジ(株) | |
| 永田 和寿 | 名古屋工業大学 | 研究会担当 |
| 中田 隆 | 日本工営(株) | |
| 中野 錦也 | 愛知県 | |
| 奈良 敬 | 大阪大学 | |
| 長谷川 隆一 | セントラルコンサルタント株式会社 | |
| 長谷部 宣男 | 長谷部応用力学研究所 | 常任理事 |
| 林 保志 | (株)協和コンサルタンツ | |
| 原田 和樹 | 玉野総合コンサルタント(株) | |
| 平石 義秀 | ショ-ボンド建設(株) | |
| 平澤 征夫 | 中部大学 | |
| 深田 宰史 | 金沢大学 | |
| 福本 嘯士 | 大阪大学・名古屋大学名誉教授 | 名誉会員 |
| 藤澤 利彦 | 新三重技術開発(株) | |
| 古市 亨 | (株)維持管理工房 | |
| 前川 幸次 | 金沢大学 | |
| 牧野 敏行 | 玉野総合コンサルタント(株) | |
| 榎谷 浩 | 金沢大学 | |
| 酒造 敏廣 | 大同大学 | 研究会担当 |
| 水澤 富作 | 大同大学 | |
| 水野 英二 | 中部大学 | 常任理事 |
| 村上 茂之 | 岐阜大学 | |
| 村瀬 敏弘 | 愛知県 | |
| 森谷 俊美 | (財)海洋架橋・橋梁調査会 | |
| 安井 昌幸 | 静岡コンサルタント(株) | |
| 山田 健太郎 | 名古屋大学 | 常任理事 |
| 山本 一博 | (株)サクラダ | |
| 吉田 順一郎 | 川田工業(株) | |
| 渡辺 孝一 | 名城大学 | |

< 賛助会員 >

(会員数: 1名)

| 氏名 | 所属 | 備考 |
|-------|----------|----|
| 由井 洋三 | 由井技術士事務所 | |